



まだまだ未熟ですが、頼れる保健所・フットワークの良い保健活動の実現を目指して頑張っています。重要な健康課題も多い中、これからもよろしくをお願いします。



那覇市保健所 所長
国吉 秀樹 先生

質問 1. 那覇市保健所初代所長ご就任おめでとうございます。ご就任に当たってのご感想と今後の抱負をお聞かせ下さい。

ハイサイ！グスーヨー、チュウガナビラ。ガンジューサ、ソウティ？

平成 25 年 4 月 1 日に那覇市が中核市へと移行しました。中核市としては全国で 42 番目ということになります。中核市となることで、多くの事務権限が県から市に移されましたが、中でも最も大きいのが保健所の設置です。ここでこれまでの保健所の歴史を簡単にご紹介させていただきます。

3 月までは、県の中央保健所が那覇市を含めた 2 市 1 町 7 村を管轄していたのですが、中央保健所の歴史は古く、昭和 45 年に現在のパレット久茂地あたりの那覇市久茂地に「保健所」として設置されたのが始まりです。昭和 47 年 5 月 15 日、本土復帰と同時に、那覇市寄宮に「沖縄県中央保健所」を設置、那覇市を管轄区域としました。施設設備を充実させるために平成 8 年 12 月に現在の与儀に移転しました。平成 11 年には、所管区域が那覇市に加えて、浦添市、島尻郡の渡嘉敷村、座間味村、具志川村、粟国村、渡名喜村、南大東村、北大東村の計 2 市 8 村になりました。そして平成 25 年 3 月 31 日をもって中央保健所は閉じましたが、県でも中核的な保健所として活動してきました。

那覇市保健所の設置にあたっては、準備のため市職員はもちろん、県担当部局や中央保健所、

そして多くの関係者にご尽力をいただいています。この方々のご努力を活かせるよう、所長として緊張感を持って毎日の業務を勤めてまいりたいと思います。立ち上がったばかりで、もちろん未熟な面が多々ありますが、新しい保健所で、新しい職員と向き合い、新しい施策を進められるのは行政で働く医師として望外の喜びでもあります。身の引き締まる思いですが、関係者の皆様にご指導ご支援をいただきながら、少しでも確かな仕事をしていければと思っています。

質問 2. 那覇市の中核市移行に伴い、那覇市保健所が開設され、県の健康増進課長を経験された国吉所長への期待は大きいかと思いますが、今までの保健所との違いや、国吉先生が目指す運営方針がありましたら、お聞かせ頂けるでしょうか。

那覇市保健所が中央保健所と大きく違うのは、本庁機能を同時に備えているところです。那覇市保健所は市の健康部に所属しますが、健康部には 5 つの課があり、うち 3 つの課（健康増進課、地域保健課、生活衛生課）が保健所にあります。各課はそのまま那覇市の組織なので、保健所の課長は市議会対応も行います。質問取りもすれば答弁書も書き、これはなかなか大変ですが、予算の編成や事業の立ち上げができるわけですから、やり甲斐があると言えます。もちろん、間違っってはいけないというプレッシャーも伴います。

私は昨年度まで県の健康増進課長でしたが、業務として特に多くの時間をかけたのが感染症対策と健康づくり政策です。感染症を含む健康危機管理対策は重要かつ、保健所を持つことで市の機能が強化されますので、新型インフルエンザ行動計画策定などを通じて、是非充実させていきたいところです。

また今年度から県では、健康長寿復活に向けて、福祉保健部だけでなく各部の主要政策でも健康を意識し予算化していく「健康長寿おきなわ推進本部」を立ち上げ、全庁体制で取り組むことを明らかにしました。これまで他県にも見られない画期的なことだと思います。今後は全県あげて運動を盛り上げる県民会議（仮称）開催が予定されており、那覇市としても県や各団体と連携して健康づくりの体制を強化していきたいと思っています。沖縄振興特別推進交付金（一括交付金）を活用しての事業も企画しやすい環境が整ってきましたので、独自のメニューを今準備しているところです。

質問 3. 「頼れる保健所。フットワークの良い保健活動」をモットーにされていますが、市民に対してどのような健康サービス提供を行っているのかお聞かせ下さい。

「頼れる保健所。フットワークの良い保健活動」というのが那覇市保健所のモットーとすることでありますが、まず直接の保健サービス提供の主体である市であることは、県型の保健所と比べてもスピード感があります。これまで、風疹予防接種への助成や結核の集団感染への対応がありました。いずれも保健所で判断し、健康部として早々に総務や財務部局、さらに上層部と調整し、数日で予算化、実行することができました。教育委員会等との相談も、直接保健所長が学校教育部長と何回か話すことで円滑に進んだと思います。これがフットワークの良い例としてあげられるかと思えます。

もちろん市としては技術行政の出先機関を持つことで、これまで以上に確かな根拠を持って、健康サービス提供にPDCAサイクルを回していけるのが望ましい姿だと思います。ただ

し、技術行政の核を担う技術職である医師、保健師、栄養士などは経験が少なく、まだまだ勉強することが山のようにあります。所長としては、県とも連携しながら、人材育成に力を入れていくことが重要だと認識しています。技術職はもとよりその専門性を発揮して様々な健康課題に対応しなければなりません。今日多くの専門職が地域にある状況で、なぜ行政でこのような職が必要かという総合力、説明力が求められてきます。これは「那覇市の保健所は必要だったか？」ということにも結びついていくところですので、なんとか頑張りたいと思います。

保健所業務である精神保健や育成医療等の業務を持つことで市町村業務との有機的な連携が取れ、サービスの提供がより迅速かつきめ細くなるというメリットは、開所する前から申し上げていたところでした。1年後には具体的な成果をご説明できるように、モニタリング指標を準備していきます。

質問 4. 県医師会に対するご意見・ご要望がございましたら、お聞かせください。

各地区医師会の先生方には、これまで個人的にもいろんな場面で大変お世話になりました。私は八重山以外の県の保健所を全て経験しましたので、それぞれの地区で、また県健康増進課長在職中も、課題にあたっては常に連携させていただきました。具体的な仕事では、宮古での「脳出血ゼロ作戦」、北部での「糖尿病・CKD地域医療連携パス事業」、などが印象に残っています。いずれも目に見えて成果を出すことのできた活動でした。最近は県医師会会員で同世代の先生方と公式非公式に連絡することが多くなり、ますます連携が取りやすくなっていると感じています。

平成 21 年のパンデミックインフルエンザ対策を思い返しても、有事に頼りになるのは医師会だと認識していますので、これからもよろしく願いいたします。近々のテーマとして、例えば地域医療連携や地域包括ケアシステムという大きな課題がありますので、今後意見交換さ

せていただければと思います。

質問 5. 最後に日頃の健康法、趣味、座右の銘等がございましたら、是非お聞かせください。

趣味と言えるのは、以前に貴誌にも書かせて頂きましたが、男声合唱団に所属してバスパートを歌っていることがあります。入団して4年目ですが、これまで大小の演奏会で、3度くらいソリストをさせていただきました。年に1回は大きな発表の場もありますので、今後とも長く続けていきたいと考えています。ちなみに沖縄男声合唱団は団員を募集中です。

また、実はダイエットも趣味というか興味を持って取り組んでいます。県庁で仕事をして1年半くらいで、様々な理由から10kg以上体重が増えてしまいましたが、何とか研修医時代くらいまで落とすことができ、たまに会った人から驚かれたりほめられたりしております。今後とも油断せず節酒、毎日体重測定、よく歩くことを心がけたいところです。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー 広報委員 本竹秀光

